

令和3年度（2021年度）第1回公立高等学校配置計画
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁学校教育局高校教育課

1 開催方法の変更について

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、Web開催（Zoom会議）として開催しました。
（参加者は個人又は所属の端末から出席）

2 参加者数一覧

会場 (学区)	参加者											傍聴者 F	合計 G(E+F)	アンケート 提出者	
	行政 関係者 A	学校関係者				計 B	PTA関係者			計 C	経済団 体関係 者計 D				計 E (A+B+C+D)
		小学校	中学校	高等学校	小学校		中学校	高等学校							
空知南	10	5	9	11	25	2	1	5	8	4	47	11	58	20	
空知北	15	8	13	9	30	3	4	3	10	3	58	8	66	25	
石狩	9	0	14	43	57	5	5	4	14	0	80	5	85	25	
後志	22	16	18	17	51	7	6	5	18	4	95	3	98	31	
胆振西	6	4	6	12	22	3	2	4	9	2	39	2	41	16	
胆振東	5	4	4	13	21	0	0	2	2	1	29	2	31	9	
日高	8	5	6	7	18	0	3	2	5	0	31	1	32	7	
渡島	11	9	11	22	42	4	1	2	7	0	60	7	67	20	
檜山	7	7	7	4	18	1	2	1	4	1	30	2	32	8	
上川南	18	10	11	22	43	0	0	4	4	1	66	8	74	21	
上川北	10	5	6	8	19	0	1	3	4	1	34	10	44	10	
留萌	16	8	8	5	21	3	5	3	11	2	50	1	51	8	
宗谷	9	10	9	10	29	0	1	0	1	0	39	1	40	18	
オホー ツク中	19	6	7	13	26	3	3	5	11	2	58	13	71	10	
オホー ツク東	5	1	7	4	12	0	4	1	5	1	23	1	24	9	
オホー ツク西	8	4	9	5	18	4	4	3	11	2	39	2	41	12	
十勝	24	16	16	21	53	7	9	5	21	2	100	9	109	20	
釧路	10	6	6	15	27	3	3	7	13	2	52	6	58	25	
根室	6	4	5	6	15	0	3	5	8	2	31	7	38	12	
合計	218	128	172	247	547	45	57	64	166	30	961	99	1,060	306	

令和3年度(2021年度)第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 開催日程一覧

全ての学区で、Zoomアプリを用いたWeb会議として開催

学区	開催日	開催時間
空知南	令和3年(2021年)4月21日(水)	10時00分～11時30分
空知北	令和3年(2021年)4月22日(木)	10時00分～11時30分
石狩	令和3年(2021年)4月23日(金)	10時30分～12時00分
後志	令和3年(2021年)4月20日(火)	14時00分～15時30分
胆振西	令和3年(2021年)4月26日(月)	16時00分～17時30分
胆振東	令和3年(2021年)4月26日(月)	13時30分～15時00分
日高	令和3年(2021年)4月19日(月)	14時00分～15時30分
渡島	令和3年(2021年)4月19日(月)	10時30分～12時00分
檜山	令和3年(2021年)4月26日(月)	10時30分～12時00分
上川南	令和3年(2021年)4月28日(水)	10時30分～12時00分
上川北	令和3年(2021年)4月28日(水)	14時00分～15時30分
留萌	令和3年(2021年)4月27日(火)	10時30分～12時00分
宗谷	令和3年(2021年)4月20日(火)	10時30分～12時00分
林-ツ中	令和3年(2021年)4月27日(火)	14時00分～15時30分
林-ツ東	令和3年(2021年)4月28日(水)	10時30分～12時00分
林-ツ西	令和3年(2021年)4月28日(水)	14時00分～15時30分
十勝	令和3年(2021年)4月22日(木)	14時00分～15時30分
釧路	令和3年(2021年)4月21日(水)	16時00分～17時30分
根室	令和3年(2021年)4月21日(水)	13時30分～15時00分

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① 高校ごとに様々な特色を持つようになれば、地域との連携がますます重要になってくる。自治体が、高校の持っている特色をどう生かすかも大切になっていく。	<p>○ 地域の発展に主体的に参画できる人材を育成する視点に立って、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた教育活動を行うなど、地域の特性を生かした活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。</p> <p>○ 各高校では、地元市町村や企業等とも連携し、地域課題の解決等に取り組む学習活動を推進するなど、生徒や保護者にとっても一層魅力ある高校づくりに向け、地域の方々と協議していく考えです。</p> <p>○ また、コミュニティ・スクールの導入により、地域や社会の参画・協力を促進することは、学校運営の改善につながるとともに、学校の魅力化や特色づくりにも資するものと考えており、道立高校においても、地域の意向等も十分把握して、順次導入を進めています。</p> <p>○ さらに道教委では、平成30年度から、地域の課題解決に取り組む「高等学校 OPEN プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。</p> <p>○ 今後は、国において本年1月に出された中央教育審議会答申で、新時代に対応した高等学校教育の在り方について示されたところであり、道教委としても、国の動向を注視しながら、高校の魅力づくりについて更に検討を進めます。</p>
② 「人づくりは街づくり」の理念のもと、地域社会を創造する若手の育成は急務であり、そのための高校教育はとても大切と考える。	
③ 地域は重要なキーワードであり、生徒の学びのフィールドとして、今後は学校内だけに限らなくなるのは明らか。「地域」という近い存在を題材にして「社会に自分たちはどう貢献できるか」を考えさせていくというスタンスが大切。	
④ 小中高の連携を進め小中学校と高校がさらに繋がり、高校は社会とさらに繋がると、より一層魅力が増すのではないかと。中学生が、各高校の教育活動への正しい理解が進むことを望む。	
⑤ 高校の特色として、他の高校より飛び抜けて特化した個性のようなものがあると、今後はそれが高校の魅力になっていくと思う。また、コミュニティ・スクール等地域の人も高校生との関わりを考えていく必要がある。	
⑥ 高校は、子供の夢を叶えるために行くところ。地域の活性化の為にあるわけではない。子供の夢を叶えられる様に、高校が子供たちの力を伸ばせるように、努力願う。特徴も大切だが、しっかりした学習サポート環境を整えてほしい。	

■ 高校の魅力化について	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【魅力化の推進】</p> <p>① 特色がものを言う時代だと感じる。地元の魅力に直結した教育内容で、地元卒業生が現実のキャリアにおいて働き甲斐を持って、地域発展に貢献できるような高校教育を充実させていただきたい。</p> <p>② 小規模校においても、学校の取組はもちろん、町、町教委などの地域との連携を一層強め、魅力化を図っていくことが必要。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望等に応じて共通教科や専門教科から必要な科目を選択して学習できる総合学科 ・進路希望等に応じて共通教科を中心に必要な科目を選択して学習できる普通科単位制 ・進路希望等に応じて共通教科のほか専門教科においても必要な科目を選択して学習できる専門学科単位制 ・6年間の計画的・継続的な教育活動を行う中高一貫教育

<p>③ 生徒数が減少する中、学級減等については仕方ないと思える。各校の特色ある活動が生徒の多様性をしっかりと受け入れられる仕組みを期待する。何を学べる学校なのか、どう学べる学校なのかという特色を出してほしいと願っている。</p>	<p>といった多様なタイプの高校づくりや地域の特性を生かした魅力ある高校づくりに努めます。</p>
<p>④ 多様なタイプの高校の成果、特色ある高校づくり等については、地域に関しての学びや、地域人材の活用、地域課題への積極的な参加に加え、中高における連携も今後は必要。</p>	<p>○ また、令和2年12月には、地域創生の観点からも、地域と連携・協働し、生徒から選ばれる魅力ある高校づくりを推進する必要があると考え、「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」を作成・配布しました。</p> <p>本道が将来にわたって輝き続けていくためには、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念の下、学校と地域の連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することが重要と考え、学校の取組を支援します。</p>
<p>【具体的な取組と課題】</p> <p>⑤ 地方創生や高校の魅力化、特色ある高校づくりは生徒確保のための宣伝よりも、基本的に地域の子供のためという大前提の下に実施することが大切。</p>	<p>○ 「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」においては、「高校の魅力化」を、生徒や学校、地域の実態を踏まえ、地域と連携・協働して、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応した教育活動を展開することにより、生徒の自己実現に寄与することができる高校づくりを推進し、生徒から選ばれる学校になること、と定義しています。</p>
<p>⑥ 高校の魅力化、特色ある高校づくりを推進することはそれぞれが工夫やアイデアを凝らしながら進めていくことが大切。</p>	<p>魅力化を進めるに当たっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の魅力化を推進するためには、学校と地域が連携・協働すること ・ 各学校の置かれている状況・課題・地域の要望を把握、把握した状況や課題・要望を踏まえて魅力化の方策を検討、方策の実施・成果検証をするという手順を踏むこと <p>が重要と考え、高校の取組を支援します。</p>
<p>⑦ 生徒の夢が叶う学校が、魅力ある学校。単なる地域連携のイベント型ではなく、地域に貢献し、地域から期待され、自らの努力で夢が叶う学校づくりが必要。単なる定員を維持することばかり考えて、道立高校間での生徒の奪い合いは、止めるべき。</p>	<p>○ また、令和3年4月、有朋高等学校内に北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））を開設し、遠隔授業の配信等を通して地域連携特例校や離島にある高校の教育課程の充実を図ります。</p>
<p>⑧ 周りと競い合うことが重要なのではなく、高校卒業後の進路実現・自己実現に向けた環境が整備されていることが重要。それが、遠隔授業、進路指導の充実や、魅力ある学科の創設などによる「魅力ある学校」づくりなのでは。</p>	<p>○ さらに、平成30年度から実施した、地域の課題解決に取り組む「高等学校 OPEN プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。</p>
<p>【広報・周知】</p> <p>⑨ 各高校の魅力発信の大切さを痛感すると同時に、各高校ですでに特色ある活動を実施していることも知ることができた。それぞれの高校の特色や良さを中学生が気軽に受信できるシステムがなされていればよいと感じた。</p>	<p>○ 多様なタイプの高校を紹介したパンフレット「わたくしの進路」を毎年度作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配付するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。</p>
<p>⑩ 地域のニーズの把握のために、多方面との交流及び意見交換を実施するよう願う。</p>	<p>○ また、多様なタイプの高校の教育内容を紹介したビデオについても同じく高校教育課のホームページに掲載し、順次内容の更新を行っています。</p>
<p>⑪ 高校が様々な取組をしていることを、中学生の早い段階に生徒と保護者に知ってもらうことが大切。せっかくの取組が校内でおさまってはもったいない。</p>	<p>○ 各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配布のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。</p> <p>注：道内公立高等学校のホームページは次の URL を参照してください。</p> <p>http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html</p>

■ 小規模校・地域連携特例校	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【教育環境の維持・向上】</p> <p>① 小規模校の存続に向け、今年度から始まった遠隔授業の活用を期待しています。</p>	<p>○ 他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域連携特例校とすることで、北海道高等学校遠隔授業配信センターからの授業配信や、協力校からの出張授業などにより、教育環境の維持向上を図ります。</p> <p>○ 地域連携特例校においては、協力校からの出張授業のほか、協力校との間で生徒会の交流や部活動の合同実施、長期休業期間中における協力校の進学講座への参加など、両校が連携した教育活動を行うなどして、教育課程の充実に努めています。</p> <p>○ 地域連携特例校と協力校の取組については、毎年度成果や課題を調査し、把握した課題については速やかに対処するとともに、地域連携特例校・協力校連携研究協議会において、情報交換や研究協議を行うなど、支援の充実に努めています。</p> <p>○ また、小規模校において、確かな学力や職業観・勤労観、地域産業を担う実践的な能力が育まれるよう、学力向上や職業教育などの研究指定に加え、平成27年度から3年間「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」を実施し、その成果の普及を図っているほか、1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。</p>
<p>② 小規模校に関しては地域連携特例校にならなくても同様の特典が受けられると良い。通信環境が整いつつあるので、地方にはなかなか聞けない講演を配信するなど、生徒に色々な人の色々な考え方を聞かせる機会を作っていただきたい。</p>	
<p>③ 地元の高校に自宅から通学できるメリットは大きいので、小規模校の存続を願う。</p>	
<p>④ 小規模校の存続に向けては、遠隔授業による学びの質が鍵となることがよく分かった。遠隔授業の体制構築状況や、学びの実感に関する高校生の生の声を、中学生やその保護者に伝える取組・仕組みが必要。</p>	
<p>【遠隔授業等】</p> <p>⑤ 北海道地域の広域分散型の教育を充実させるためには、さらに遠隔による教育課程の編成を推進すべき。</p>	<p>○ 北海道高等学校遠隔授業配信センターは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことができる、多様で質の高い教育を提供するため、大学進学等の希望に対応した教科・科目を配信し教育内容の充実に図ること ・小規模校が、魅力化に取り組むことで、子供たちが地元で育ち、地域に愛着と誇りをもってふるさと発展に貢献していく意欲を育むことを目的としています。 <p>また、配信センターと地域連携特例校及び離島の高校を相互に結び、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の高校へ授業を同時配信し、他校の生徒とともに学ぶ合同授業の実施 ・大学進学など、同じ目標を持った他校の仲間と切磋琢磨した学び ・夏季・冬季休業中の進学講習の受講 ・全国の最新情報を踏まえた進路指導の支援を行うなど、教育環境の充実に努めます。 <p>○ 平成29年度から5年間、対面による授業時数を緩和した遠隔授業の単位認定の在り方等についての研究開発に取り組んでおり、今後は、生徒の理解力に応じた個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実にに向けた取組を進めその成果の普及に努めます。</p>
<p>⑥ 地方の小規模校について、現在、地域連携特例校の制度や、T-baseによる授業配信制度等を導入し、何とか存続の道が見えているのは大変良い。</p>	
<p>⑦ 人口減少が進み、児童生徒数もどんどん減っており、小規模校が増え教員数の確保など難しいことがあることが分かった。小規模校において遠隔授業などを取り入れていけることは子供たちの学びにとってとても有り難いことだと思う。</p>	

■ 高校配置計画の策定	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【基本的な考え方】</p> <p>① 子供たち一人一人が自分の将来を考え、適切な高校で学ぶことができるのが大前提。今ある高校に子供たちを当てはめるのではなく、子供たちにどのような高校が必要で、どのように配置すべきかを基本にもどって考え、そこから現在の高校をどう生かすかを計画すべき。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、中学校卒業生数や生徒の進路動向、学校規模、学校・学科の配置状況、欠員の状況などを勘案し、地域の実情などを考慮しながら策定しています。</p>
<p>② 定員調整等が必要なのはわかるが、子供たちの選択が狭まり過ぎることにならないような御配慮願う。 また、学級の定員数についても検討いただきたい。</p>	<p>○ 中学校卒業生数が減少する中、生徒の実態を踏まえた教育課程を編成し、活力ある教育活動を展開する観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、都市部と郡部の違いや地域ごとの特性などを十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【策定方法・示し方】</p> <p>③ 人口推移はおおむね予測できることから、間口削減だけでなく、統廃合も早い段階から示した方が地元の理解も得やすい。1学年1クラスの地方高校は、いつかは維持に限界が来ることから、理解を得るためにも、人口推移を示しながら、早め早めの通知が必要。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、人口減少社会への対応や地方創生の観点から、地域の教育機能を確保するための方策などを示す「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待も十分踏まえるとともに、小学校の校長や保護者にも参加いただいている地域別検討協議会において、地域の方々の御意見を伺うほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただきながら検討しています。</p> <p>○ 今後とも、今後の中学校卒業生数の状況を踏まえた上で、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めるとともに、関係市町村に対して、配置計画の検討に必要な情報を早期に提供するなど、地域での議論が一層深まるよう努めます。</p>
<p>【再編等（地域の実情等）】</p> <p>④ 経済的な問題、また、高校卒業までは親元で子供を育てていきたいと考える保護者も多いことから、管内の高校進学者を受け入れることのできる定員の確保を願う。</p>	<p>○ 高校配置の検討に当たっては、広域で地域事情も異なる本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p>
<p>⑤ 少子化に伴う学級減はやむを得ないが、通学負担の軽減や選択肢の確保について今後も配慮願いたい。</p>	<p>○ 急激な人口減少が進む中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、交通機関の状況や、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いこと、地理的状況等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p>
<p>⑥ 学校が減少すると、都市部の子供に対し、地方の子供の負担が大きくなるのが課題。しかし、切磋琢磨し合える、また、大勢の人と充実感を味わえる大きさの集団で生活することも大切。 ただ、単に学校数・学級数で課題を解決するのではなく、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる方法を考えていただきたい。</p>	<p>○ こうしたことから、再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> <p>○ 今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、各年</p>

<p>⑦ 少子化は避けられない流れだが、機械的に一律に間口を減らすのではなく、該当地域の歴史や地理的条件などを充分考慮し、関係当事者の意見を真摯に拝聴して対応していただきたい。</p>	<p>度の中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、都市部と郡部の違い、学校・学科の特性、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを勘案するとともに、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。</p>
<p>【再編等（小規模校の役割）】</p> <p>⑧ へき地においては、今後も子供の少子化は間違いなく進み、へき地の学校に多くの生徒が集まることは難しい現状。少人数で学ぶデメリットも多いが、少人数だからできるメリットもあると思う。少人数だからこそできる特色ある高校づくりを目指していただきたい。そして、地元の子供たちが誇りをもって、地元の高校へ進学できることを望む。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。こうした中、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場として役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。</p>
<p>⑨ 生徒数の増減に応じて道立高等学校の学級数を調整していくことは、必要なことであるとする。一方、保護者の居住する地域条件などにより小規模校に進学せざるを得ない生徒であっても、将来の自己実現への道が少しでも開かれるよう、選択科目などの幅を保障する仕組みを整備する必要があると感じた。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が引き続く中、高校の教育環境を整え、生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましく、今後も定員調整はやむを得ない面もありますが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p>
<p>⑩ 小規模の高校は、少なからず地域のニーズがある。単純に生徒数が減少したから間口減や再編とならないように、長期的視点で地域の意向を聴取していく必要があると思われる。</p>	<p>○ 平成30年3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」において、人口減少社会への対応や地方創生の観点から、地域連携特例校などに係る再編基準を緩和したところであり、道教委としては、遠隔システムによる教育環境の整備や、市町村教育委員会・地元企業等との連携・協働による特色ある教育活動などを通して、一層魅力のある高校となるよう、きめ細かな支援に努めます。</p>
<p>⑪ 地域が衰退しないようにするためには、それぞれの実情に合った対応が必要。教育の本質や学校という入れ物の機能を考えると安易に流れることなく地域を支える人材を育成することを願う。</p>	<p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に寄与することができる人材の育成に向け、地域の方々の御意見を十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>⑫ 地域と一体となって高校教育を進めている市町村の実情を十分に理解し、高校教育の推進のため、地域との連携の状況を十分考慮の上で、配置計画を策定されるよう、願う。</p>	<p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に寄与することができる人材の育成に向け、地域の方々の御意見を十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【私学・高専との関係】</p> <p>⑬ 就学支援も充実し、以前に比べて、公立・私立の垣根なく、「行きたい学校」「学びたい学校」を選べる環境ができていく。中学生の志願状況も聞き取りながら、少しでも実態に近い定員調整を願う。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会で私学関係者からも御意見を伺うとともに、私立・公立高校関係者と知事部局及び道教委による「北海道公私立高等学校協議会」を設置し、中学校卒業生数を踏まえた公私双方の入学定員の考え方などについて協議しています。</p>
<p>⑭ 公私割合に配慮しているというが、私学の充足率が低いのは公立の定員が多いからである。公立が地方に分散しているためと言うが再編に値する学校が多いと感じる。</p>	<p>○ 公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、私学所在学区ごとの私立高校の配置状況に配慮し、中学校卒業生数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行っています。</p>
<p>⑮ 地域の実情を踏まえ、地方創生の観点を特に重視して計画策定していただきたい。私立高校の果たしている役割をしっかりと認識していただき、早急な間口調整をお願いしたい。</p>	<p>○ 今後とも、私立高校などの関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。</p>

<p>【学級定員の引き下げ】</p> <p>⑯ 義務教育はもう 35 名という流れが明確になっている。丁寧な教育を進めるためにも、1 学級の定数を下げることが有効。国に対し要望を続けていただきたい。</p>	<p>○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、本道独自の少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えており、国に対し引き続き定数改善を要望していきます。</p>
<p>⑰ 定員に関しては、今後の感染対策も考慮して、一クラスの人数を更に少なくして教員が一人一人の生徒の状況を把握可能な人数としてほしい。</p>	<p>○ これまでも、道教委では、1 間口の道立高校に対する独自加配のほか、国の加配定数を活用した様々な加配を行っており、今後も、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き要望していきます。</p>
<p>⑱ 社会情勢は大きく変わり定数の見直しが必要と思われる。確実に少子化が進むなかでより質の高い教育が求められている今、定数改善を行うことが大切ではないかと思う。高校も 35 人学級で少人数指導でより質の高い活動を望む。</p>	
<p>【望ましい学校規模】</p> <p>⑲ 4 から 8 間口の規模については、北海道の都市部にしか当てはまらず、広い北海道の特性を考慮し、地方創生という視点を重視しながら、特色ある高校づくりは進められるべきであろうと感じた。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。</p>
<p>⑳ ある程度の教育活動を維持するためには、一定規模の間口が必要と考える。地域の理解を得ながら適正な高校配置を進めることを希望する。</p>	<p>このため、学校規模については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる ・多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られる ・より多くの教職員の指導により、多様な見方や考え方が学べる ・生徒会活動や部活動が活性化し充実する <p>などの考え方から、可能な限り 1 学年 4 ～ 8 学級の望ましい規模を維持することとしています。</p>

■ 職業学科の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【職業学科の配置の在り方】</p> <p>① 職業高校は子供たちに魅力がある内容であるとともに、地域の人材不足にも寄与する等、地域企業にも関心が集まる知識を習得できる学校となると良いと思う。</p>	<p>○ 職業学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を通して本道の産業を支える人材を育成しています。</p>
<p>② 少子化が進む中で、各地域で地元高校の特色と魅力を出す取組を行っていることを理解。決まった生徒数の中で、配置計画を進める側の難しさもあるが、やはり特化した職業高校は必要。地域の協力や地域性、行政の連携も重要。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与する人材を育成できるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検討します。</p>
<p>③ 職業高校はもっと地域が求めているニーズを把握し、特色を出すことが必要。</p>	

■ その他	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【地域への説明等】</p> <p>① 別枠の時間をとっていただき、もう少し対象の範囲を広げて多様な方々からの意見を聴取することも必要。同じメンバーの意見では、どうしても視野が狭くなりがちではないか。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。</p> <p>○ 第1回目の協議会では入学者選抜における入学状況、生徒の進路動向、今後の中学校卒業生数の見込みなどを説明し、第2回目では計画案の考え方などについて説明し、地域の方々から御意見などを伺っています。</p> <p>また、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出向くなどして、道教委の考え方について説明を行っています。</p> <p>今後とも、地域の方々の御意見などを伺いながら、検討を進めます。</p>
<p>【地域別検討協議会】</p> <p>② 新型コロナ感染対策の他に、学生もこれから Web 会議が身近な存在になる。我々も Web 会議に慣れておく必要性を強く感じます。</p>	<p>○ 第1回地域別検討協議会については、新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から、全道19学区でWeb（Zoom）による開催としました。</p> <p>配付資料は Web ページ上での掲載とし意見については、電子申請システムを活用し、取りまとめました。</p>
<p>③ 説明をしっかりと聞くことができ、質問や意見、地域の現状等が述べられる会議であれば、開催方法は対面でも Web 会議でも良い。</p>	<p>○ 今後も開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、いただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。</p>